

第9回

# バリアフリーダイビング 全国大会 in 沖縄

## 実施報告書

2006年6/29日(木)～7/2日(日)

沖縄県那覇市前島

沖縄かりゆし

アーバンリゾート・ナハ

## How Many いい顔

～緊張・心配・幸福・笑顔…いい顔いっぱい！～



主催：日本バリアフリーダイビング協会



## ～ 内容のご案内 ～



1. 役員あいさつ
2. 来賓あいさつ
3. 大会参加レポート
4. 大会運営役員一覧
5. 参加状況  
サポートダイバー取得者一覧  
地域別参加者統計  
大会スケジュール
6. アンケート集計結果
7. 広報資料
8. 会計報告
9. 協会役員名簿
10. 協会顧問・参与名簿
11. 後援・共催・協賛・協力一覧
12. 協賛広告
13. 次回大会課題/告知
14. 2006年度地区大会報告
15. スナップ写真

## 1. 役員あいさつ

### 「第9回バリアフリーダイビング全国大会」終了のご報告

皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

「第9回バリアフリーダイビング全国大会」が皆様のおかげをもちまして無事終了する事ができましたことをご報告いたします。

今年は例年より一週遅れの開催で、沖縄では例年になく大雨の梅雨でしたが、開催の数日前に梅雨明けとなり、すばらしく天候に恵まれた大会でございました。

今回大会は「How Many いい顔」～緊張・心配・幸福・笑顔・・・いい顔いっぱい！～がテーマで、参加者の方々の出発の前の緊張した顔や心配顔が、沖縄の透き通るような素晴らしい海を満喫し、各コースを終えて戻ってきた時の幸福に満ちた顔はまさに本大会のテーマである「How Many いい顔」～・・・いい顔いっぱい！～そのものでした。

今回はボランティア参加者はいつものいい顔の皆様と京都から龍谷大学の皆様、先生方を始め学生の皆様には、各グループ内での活動は目を見張るものがあり、今年もその明るさと力強さで大会を盛り上げて頂き感謝しております。そして今大会ボランティア参加者を含め前大会終了時より今大会終了時までサポートダイバーを取得された16名の皆様には全国各地域においてさらなる活躍を期待しております。

毎回大会の大きな原動力となりますボランティアの皆様、そして再会するたびにパワーをいただくゲストの皆様、本当にありがとうございました

今年も皆様よりご意見及びアンケートをいただき、感動していただいた事や至らぬ点、要望など、今後にかかして年々すばらしいものにしていきたいと考えます。

そして来年は10回大会でございます。記念大会となりますよう皆様のご意見、ご要望、企画等を元に協会一丸となって準備を進めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

最後に今大会開催にあたりご協力、ご後援いただきました皆様方に、この場をお借りいたしまして深く感謝申し上げます、「第9回バリアフリーダイビング全国大会」のご報告と致します。

日本バリアフリーダイビング協会

会長 山田 眞佐喜



## 2. 来賓あいさつ

### ごあいさつ

第9回バリアフリーダイビング全国大会の開催を心からお喜び申し上げます。

本大会は、障害者と健常者がマリンスポーツを通して触れ合い、お互いが心と心を通い合わせ、感動を分かち合うことによってノーマライゼーションの推進を図る目的で開催されます。

本県においても障害者自立支援法の施行に伴い、障害者が地域で安心して暮らせる社会の整備、障害者の積極的な社会参加のための各種施策の充実に取り組んでいるところであります。

このような中、本大会が「HOW Many いい顔 ～緊張・心配・幸福・笑顔・・・いい顔いっぱい！～」をテーマに、今年も沖縄で開催されますことは、障害のある方もない方もともに支え合う社会の構築を目指している本県にとって、大変意義深いことであります。

本大会にご参加の皆様には、沖縄の素晴らしい海を始めとした豊かな自然や多彩な文化に触れ、本県に対するご理解を一層深めていただければ幸いです。

終わりに、本大会の開催にあたりご尽力いただきました日本バリアフリーダイビング協会をはじめ、関係者並びにボランティアの皆様には深く感謝申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念しまして、ごあいさつといたします。

沖縄県知事 稲嶺 惠一

### ごあいさつ

「第9回バリアフリーダイビング全国大会」の開催を心よりお喜び申し上げます。

本大会は、高齢者、障害者における心と体のバリアを取り除き、沖縄の自然豊かな海を満喫するダイビングや歴史ある伝統工芸を通して、相互間交流を図る目的で開催されると伺っております。

本市におきましても、「第2次なは障害者プラン」に基づき、障害のある市民の文化、スポーツレクリエーション活動への参加を支援するとともに、参加機会の拡充に取り組んでいるところであります。

「How Many いい顔～緊張・心配・幸福・笑顔・・・いい顔いっぱい！」をテーマに、本大会が那覇市で開催されますことは、障害の有無を問わずすべての人が個人として尊重され、個性と可能性に応じたあらゆる分野の活動に等しく参加できる共生のまちづくりを目指しております本市にとりましても、大変意義深いことであり、ご同慶の至りであります。

大会に参加されますゲスト並びにボランティアの皆様には、美しい沖縄の自然や独特の文化を存分に堪能していただきたいと思っております。

終わりに本大会の開催にご尽力いただきました日本バリアフリーダイビング協会をはじめ、関係者並びにボランティアの皆様には深く感謝申し上げますとともに、皆様方の今後ますますのご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

那覇市長 翁長 雄志

### 3. 大会参加レポート

#### 「2006バリアフリーダイビング全国大会in沖縄」に参加して

龍谷大学短期大学部 徳田 眞三

昨年に続き今年も「バリアフリーダイビング全国大会」に本学の学生が参加させていただいた。今年は特に天候に恵まれ、突き抜けるような真夏の太陽と非日常的な沖縄の雰囲気、空港を出た瞬間われわれを迎えるかのように強烈に身体を包み込んだ。

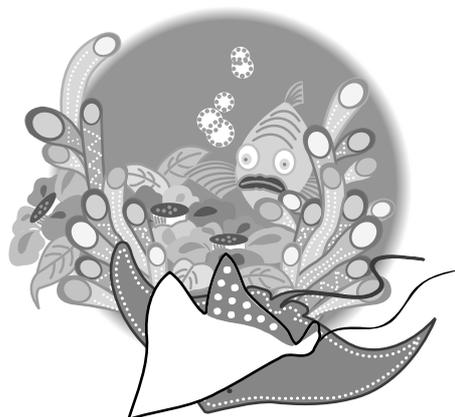
今年の本学の学生参加者は男子学生5名、女子学生2名にアドバイザー(昨年参加した卒業生)1名であったが、みなこの強烈な南国の雰囲気に浮かれ、自らの役割を忘れてしまうのではという一抹の不安は、やはり沖縄に到着し本番をむかえるまでぬぐいきれなかった。この大会は言うまでもなく水辺の活動であり、一瞬の判断や状況把握のミスが大きな事故につながりかねないだけに学生の自覚を期待していたわけである。

しかし、その心配は無用であった。「バリアフリーダイビング全国大会」は大変組織化され、オリエンテーションや各スタッフミーティング、ボランティアへの説明、チーム毎のミーティングの他、各自の目的に応じて2コースのクラスを設けて対応されており、メディカルチェックの実施やドクターの海洋同行など安全面、緊急対応等にも十分考慮された大会である。このような活動自体が初体験の本学学生に対しても、大会期間中をとおして、組織的且つ、楽しい雰囲気の中にも真剣みある取り組みに、それぞれ学生がグループに分かれて参加させてもらい、適切なアドバイスや指示をいただきながら学生のやる気をうまく引き出していた。おかげで、学生は戸惑うことなくスムーズに活動することができた。それどころか、当初われわれが期待していた以上に学生たちは初日より大変意欲的に、また自覚ある行動を心がけていたように思われる。ゲストとバディーを組ませてもらい、終始行動をともにさせてもらって活動し、ホテルでも同室させていただいた。最終日には帰路の途中や大阪空港到着後も学生は最後まで身勝手な行動をとることなく介助を行っていた。スタッフやチームリーダー等、多くの方々の助けをもらいながらも自らの持てる力を振り絞って、さまざまな活動に取り組んでいたと評価している。

最後に、このような多くの学びの場を提供していただいたバリアフリーダイビング協会の方々や関係各位、参加者すべての方々に感謝の意を表したい。

そして、この大会での体験から得た数多くの学びを、個々の学生が今後さまざまな場面で生かせるよう、その学びをさらに深めてくれればと念じるばかりである。

合 掌



## 4. 大会運営役員一覧

### ■ 役員 ■

運営委員長	会長	山田 眞佐喜			
事務局		屋良 洋子			
総務		山田 エイ子	又 吉 米 子		
記録		海老沢 匡 信	矢 本 弘 一		
会場設営・進行		佐久間 真 一	末 吉 弘 一		
送迎・運搬	専務理事	宮里 一 男			
受付・備品管理		高尾 清 子	林 智 子		
医療全般・救急・救護		伊藤 博 明	真栄田 篤 彦		
宴会・食事・会計		山田 エイ子			
ビデオ撮影		長田 勇 充	福 田 安 美		
マスコミ対応	沖縄支局長	田端 一 郎			
安全管理対策委員	顧問	後藤 勝 之 人			
海洋実施・器材管理		新井 雅 幸	岸 田 彩		
船管理		山田 幸 村			

### ■ 指導員 ■

☆障害の特徴と対応	伊良波 知 子			
☆トランスファー及びリフティング指導 上級障害者スポーツ指導員	宮 里 一 男			
☆J B D A指導員	屋良 洋子・山田 幸村・新井 雅人 五味 高広・錦織 秀治・入江 俊彦 岩吉 美樹・輪島 薫美・森 泰憲 加藤 喜久・北田 宏樹・西谷 雅治 坂本 利明			
☆インストラクター	金 成 局 小 野 明 美 佐 方 美 子 今 川 達 也 小夫家 新 造 小 林 明 彦	伊 関 亜里砂 前 川 真 寛 近 江 寛 寛 武 田 あづさ 金 城 将 憲		
☆ボートキャプテン	ステイドリーム LOOK III世 マリンポイント B R C パイレーツIII アクティブ 奈 津 丸 か り ゆ し マ リ ン 号	山 田 幸 村 新 垣 盛 保 洲 鎌 敏 吉 森 敏 中 西 間 祐 當 前 田 善 新 里 里 サカイ		村 春 紀 行 亮 介 紀 勝

## 5. 参加状況

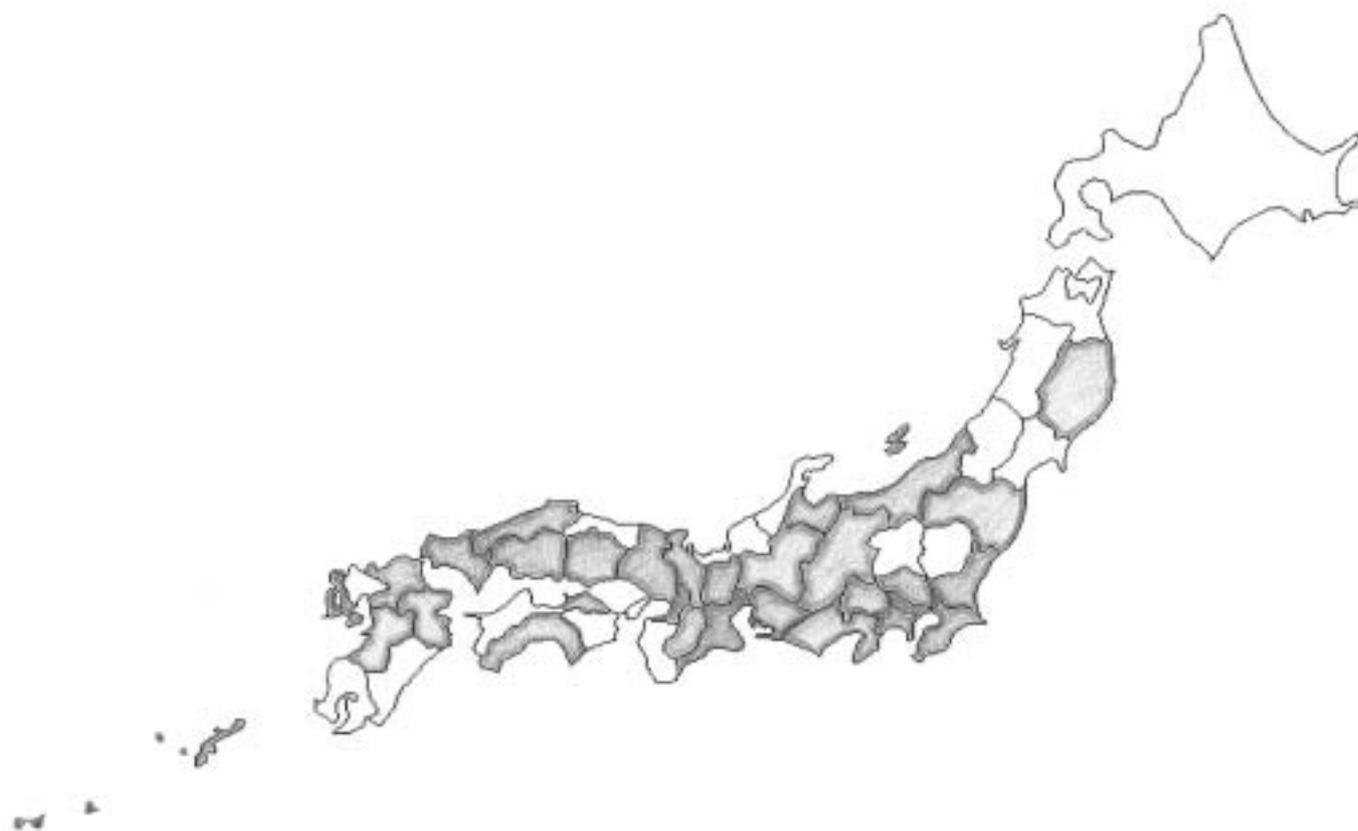
全参加者障害別統計（重複あり）

障害区分	年代別	性別	ゲスト	ボラ	スタッフ	学生	備 考	
視覚障害	30代	男性	2				角膜ブドウ膜種による視覚障害	
		女性	1				網膜色素変性症	
	60代	男性	1				急性緑内障による視神経異変	
	70代	女性	1					
聴覚障害	20代	男性	1	1			感音性難聴	
		女性		2				
	30代	女性		2				
肢体障害	10代	女性	1				四肢体感機能障害	
	20代	男性	6				左股関節機能障害	
		女性	1				脊髄頸椎損傷	
	30代	男性	5		1		両下肢右上肢機能障害	
		女性	4	1			体幹機能障害	
	40代	男性	6	2	1		股関節脱臼	
		女性	3				脳性マヒ	
	50代	男性	6				ポリオ	
		女性	4				脊髄損傷	
	60代	男性	1				脊髄損傷による両下肢機能障害	
女性		2	1			変形性関節症による両股関節機能障害		
その他	20代	男性	2				知的障害	
	70代	女性	1				心臓・言語機能障害	
健常者	10代	男性				5		
		女性		1		2		
	20代	男性			2	3		4
		女性			19	8		
	30代	男性			5	21		
		女性			21	9		
	40代	男性			9	17		
		女性	1		9	2		
	50代	男性			5	6		
		女性	3		1	1		
60代	男性			1	1			

新たに昨年7月～今年7月までにサポートダイバーを取得された皆様

名 前	取得年月日	実習地	名 前	取得年月日	実習地
緋田 ひろみ	05.10/14	中国	櫻井 繁	06.07/01	沖縄
池田 美穂	05.10/26	関東	森田 喜治	06.07/01	沖縄
竹田 恵利子	05.10/26	関東	佐方 美子	06.07/01	沖縄
須永 泰子	05.12/15	関東	藤田 純子	06.07/01	沖縄
岩崎 亜弥	05.12/15	関東	蛭原 美都紀	06.07/01	沖縄
河合 晴海	06.04/06	沖縄	多羅尾 涼子	06.07/01	沖縄
内山 加寿子	06.07/01	沖縄	平田 智恵	06.07/01	沖縄
長野 久子	06.07/01	沖縄	比嘉 鈴代	06.07/01	沖縄

## 地域別参加者統計



地域別	都道府県	ゲスト	ボランティア	学生ボラ	スタッフ	合計
北海道	北海道					0
東北	福島・岩手	2				2
北陸	富山	2				2
甲信越	新潟・長野		1		2	3
関東	茨城・埼玉・千葉・東京・ 神奈川・山梨・静岡	9	25		10	44
東海	愛知・三重・岐阜	3	6		3	12
近畿	京都・滋賀・奈良・大阪・ 兵庫	12	9	10	3	34
中国	岡山・広島・島根・山口	13	10		1	24
四国	香川・高知	2				2
九州	福岡・長崎・大分・熊本	6	5		2	13
沖縄	本島・離島	3	15		39	57
海外						0
合計		52	71	10	60	193

# 大会スケジュール

	6月29日(木)	6月30日(金)	7月1日(土)	7月2日(日)
6:00		ボランティア・スタッフ 会場入り及び準備	ボランティア・スタッフ 会場入り及び準備	
7:00	スタッフ、ホテルへ出発	○朝食 6:30～ 順次メディカルチェック	○朝食 6:30～ 順次メディカルチェック	○朝食 6:30～
8:00	ゲスト参加者 ボランティア参加者 各空港に集合後 沖縄に向けて出発！			7:55 集合 延泊者オプション ダイビング出発
9:00		Aコース 8:25 集合 海洋 1	Aコース 8:25 集合 海洋 3	
10:00	地元ボラ歓迎準備			
11:00	大会本部設置			チェックアウト後 空港へ送る。 空港にてフリー
12:00	那覇空港到着後 ホテルまで順次 送る。	昼食 (船上)	昼食 (船上)	
13:00	チェックイン開始	海洋 2	海洋 4	各空港に向け出発
14:00	14:00～15:00 リーダー説明会	15:00 帰港	15:30 帰港	
15:00	15:15～16:15 ゲスト説明会 15:15～15:45 ボランティア説明会 15:45～16:15 ボラ・リーダー ミーティング			
16:00		Bコース 8:10 集合 プール 講習	Bコース 8:10 集合 海洋 2	
17:00	17:00～17:45 開会式 17:45～18:15 オリエンテーション 18:15～18:45 チームミーティング 19:00～20:30 welcome ディナー	○昼食 (ホテル)	昼食 (船上)	
18:00		Bコース 12:55 集合 海洋 1	海洋 3	
19:00		16:00 帰港	15:00 帰港	16:00 オプション ダイビング帰港
20:00	解散	★チームミーティング (チーム毎に時間を設 定してください。)		
21:00	21:00～ ☆リーダーミーティング	18:30～ ホテル内にて夕食	18:30～ 記念撮影 本部デスク集合	
22:00		21:00～ ☆リーダーミーティング	19:00～ 閉会式 19:30～ 交流会パーティー	
			22:00～ ☆リーダーミーティング	

## 5. アンケート集計結果

### ◎ ゲスト（体験ダイビング参加）の皆様から頂いたアンケート結果

<参加者24名中 回答率54%>

Q 1. 今回の大会は何によって知りましたか？

- |         |    |            |        |
|---------|----|------------|--------|
| a. マスコミ | 0名 | b. 協会のお知らせ | 5名     |
| c. 知人   | 7名 | d. その他     | 1名（大学） |

Q 2. ダイビングについて

①海に潜ったときの気持ちをお聞かせください。

- |          |    |         |    |
|----------|----|---------|----|
| a. 楽しかった | 9名 | b. 感動した | 8名 |
| c. 普通    | 0名 | d. 怖かった | 2名 |
| e. その他   | 0名 | f. 複数回答 | 6名 |

②また、ダイビングをしてみたいですか。

- |             |     |              |    |
|-------------|-----|--------------|----|
| a. 是非してみたい  | 10名 | b. 機会があればしたい | 2名 |
| c. 二度としたくない | 0名  |              |    |

Q 3. 今後のダイビングについてお聞かせください。

- |              |    |              |    |
|--------------|----|--------------|----|
| a. 講習を受けてみたい | 5名 | b. 特に資格は要らない | 2名 |
| c. どちらともいえない | 4名 | ・Cカード申請中     | 1名 |

Q 4. 今回はオプションを設定しておりません。

この件についてお聞かせください。

- |                 |    |                 |    |
|-----------------|----|-----------------|----|
| a. 観光などあったほうが良い | 4名 | b. もっとダイビングがしたい | 8名 |
| c. どちらともいえない    | 1名 |                 |    |

Q 5. ボランティアの方へのご意見

- ・紙面では書ききれない程お世話になりました。皆様の活躍の姿にいっぱいの感動をもらいました。出来ることを精一杯する姿の美しさ、学びたいと思います。
- ・良かった。とても楽しく過ごせました。
- ・いきとどかなったところに少し不満がある。
- ・ゲストに固定のボラさんがついていただき、いろいろとお世話していただき大変助かりました。無理のない動きの中で普段味わうことの出来ない体験をさせていただきました。
- ・とても良く気の利くボラさんでした。本当にありがとうございました。
- ・ラグビー部の方のパワーがなければ自分ではとてもダイビングをする事が出来なかったと思います。ありがとうございました。
- ・皆様のそれぞれの力を生かして、障害者に手助けをされているのには、感動しました。障害者の我々を理解してもらいたい機会、出会いとなりいい事だと思います。
- ・直接障害者の方へのお手伝いの人もいれば、裏方で暑い中準備等に手助けされている人々に心よりお礼が言いたい気持ちです。
- ・とても親切な方ばかりで安心して何事でもお願いが出来てよかった。
- ・ボラはよく動く。

Q 6. 協会事務局へのご意見、その他

- ・当日を迎えるまでの準備、大変だったと思います。ありがとうございました。
- ・来年度は是非喫煙者とそうでない者（ニオイ、ケムリにとっても弱く咳き込みます）の部屋を分けてほしい（それとイビキ、これはどうしようもないですかね）。
- ・ホテルの部屋の通路がもっと広いと良い。
- ・リーダーさんもよかった。皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。又、会える日があることを・・・
- ・とても良くしていただき感謝しております。又、皆様にお会いできて嬉しいです。ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。
- ・もう少し時間に余裕を持ちたい。お風呂が使いにくかった。
- ・いつも大変なご苦労と存じます。命と身体に負担をかける仕事でのご配慮は学びたいものです。
- ・ホテルに洗濯物を干す場所がほしかったです。
- ・ありがとうございました。又、よろしく願います。
- ・パイレーツⅢ号の大型船により、船酔いの心配もなく、とてもよかった。食事が大変美味しいでした。施設のリゾート性に欠けていたのが残念。
- ・ポイントに着く迄に船が結構揺れて疲れるので、今回のような大きい船（パイレーツⅢ号）の方がありがたいです。30分位の乗船時間が望ましい。
- ・とてもゆきとどいているので何もいうことはありません。
- ・大会スケジュール表に詳しく書いてほしい。場所とか・・・（例：ホテル内にて夕食、ホテル宿泊者のみ食事券配布等）も〜っと分かりやすく。初めての人は分からないことが色々あるので。

Q 7. 来年は記念すべき10回大会です。特別企画などご要望があればお教えてください。

参考にさせていただきます。

- ・ファンダイビングの人と一緒にグループになってみたい。
- ・楽しみにしております。
- ・10回大会にふさわしいゲストを呼んで欲しい（タレント及びイベント）。大会とは別に10周年記念ダイビングツアーを企画してみてはどうでしょうか（くじらウォッチング等）。
- ・ゲストを呼んで欲しいです。
- ・10回大会記念なら有名人を連れてきてほしい。今まで見たことのないとびっきりの企画。

ゲスト（体験ダイビング）の皆様の多数のご意見、ご感想ありがとうございました。

コメント内容が多彩な為、一部抜粋の形で掲載させていただきました。

他のアンケート内容についても今後の参考にさせていただきます。

ご了承くださいませ。

## ◎ゲスト（ファンダイビング）の皆様から頂いたアンケート結果

<参加者30名中 回答率43%>

Q 1. 今回の大会は何によって知りましたか？

- |         |    |            |     |
|---------|----|------------|-----|
| a. マスコミ | 0名 | b. 協会のお知らせ | 10名 |
| c. 知人   | 0名 | d. その他     | 0名  |

Q 2. ダイビングについて

① 今回のダイビングスケジュールはいかがでしたか？

- ・ゆったりしていて良かった。
- ・とても良いスケジュールでした。
- ・良い（複数回答有り）。
- ・遅い飛行機でよかったです。
- ・大変満足しています。
- ・何となく物足りない。
- ・お天気も良く良かったと思います。
- ・今回もスノーケルをやったので良かった。昼食は船の上でしたので時間もったいない。
- ・まあまあ。

② 今回のダイビングポイントはどうでしたか？

- ・慶良間まで行けて良かった。天気もよく、波もなかったのでかなり良かった。
- ・（すごく）良かったです（複数回答有り）。
- ・よかったです、昼の弁当はダメでした。
- ・波の予定も考えてくださって良かった。
- ・1日目はつまらなかった。
- ・1日目チービシ、2日目慶良間と違うポイントに行ったのが良かった。

Q 3. 今後のダイビングについてお聞かせください

- ・自分のペースで、またスタッフの方々の配慮で楽しくすごしたい。
- ・関東大会に参加の予定。
- ・砂浜のある所でダイビングをしたい。
- ・グループは介助を必要としない人、全介助の人に分けて作ってほしい。
- ・又少し違う地域に行けたら良い。
- ・大会は大会でよいですが、ダイビングをもう一本位ふやしてほしい。
- ・ファンダイビングが良かったので、これからもっと上達したい。
- ・自分のペースで楽しんでいきたいです。ダイビングに出会えて幸せって思いました。

Q 4. 今回はオプションを設定しておりません。この件についてお聞かせ下さい。

- |                 |    |                 |    |
|-----------------|----|-----------------|----|
| a. 観光などあったほうが良い | 2名 | b. もっとダイビングがしたい | 6名 |
| c. どちらともいえない    | 3名 | d. 複数回答         | 1名 |
- ・選択できるようにしておいたらどうか。

Q 5. ボランティアの方へのご意見

- ・一人一人よく見てくれたので助かりました。
- ・皆さん親切でした。
- ・今回、私自身はほぼ自立状態、でも無理はしていません。自分で出来る事はやりました。
- ・とても良くしてくださって感謝しています。但し、人によっては（ゲストの）出来ることは自由にさせてほしいのもあった。
- ・事務局側の配慮が感じられる組み合わせでご苦労だったと思いますが、同室の方には良くしていただきました。もちろん他の方々にもたくさんお世話になり感謝です。
- ・お世話になりました。

Q 6. 協会事務局へのご意見、その他

- ・開会式において、来賓の方が揃っているのに定刻になってもみんな（参加者）が着席していないのは失礼では？
- ・基調講演が良かった（但し、横断幕を上げてもっと上に映すべき）。
- ・今度は家族で沖縄に行きたいのでよろしくお願いします。
- ・部屋割は喫煙者、非喫煙者を分けてほしい。
- ・今後もよろしく。
- ・心配りに感謝しています。
- ・ご苦労の程、感謝します。今年はダイビングが主体でとてもよかった。
- ・事務局はご苦労だと思いますが、協会のスタッフの手作りが一番だと思います。楽しい大会をありがとうございました。
- ・ご苦労さま。
- ・ファンダイブで船上での昼食のお弁当はしつこくて重いと思いました。おにぎりとかサンドイッチの軽めがいいです。

Q 7. 来年は記念すべき10回大会です。特別企画などご要望があればお教えてください。参考にさせていただきます。

- ・特別な行事でダイビングが詰まらないようにしてください。
- ・10回全出席したいと来年も頑張ります。
- ・楽しい企画をよろしく。予定はできるだけ早めにわかるとうれしいです。
- ・10回大会だからと言って企画は9回大会と同じで良いと思う。私は海が好きだから。

ゲスト（ファン）の皆様の多数のご意見、ご感想ありがとうございました。  
コメント内容が多彩な為、一部抜粋の形で掲載させていただきました。  
他のアンケート内容についても今後の参考にさせていただきます。  
ご了承くださいませ。

## ◎ボランティアの皆様から頂いたアンケート結果

<参加者 81 名中回答率18%>

Q 1. 今回の大会は何によって知りましたか？

- |         |    |            |    |
|---------|----|------------|----|
| a. マスコミ | 0名 | b. 協会のお知らせ | 7名 |
| c. 知人   | 2名 | d. その他     | 5名 |

Q 2. 今回グループ編成についてお聞かせください（参加者対ボランティアの人数等）。

- |           |     |             |    |
|-----------|-----|-------------|----|
| a. ちょうど良い | 10名 | b. まあまあ良かった | 2名 |
|-----------|-----|-------------|----|
- c. 見つかった 1名（ゲストの状態によりボラの人数が少なかった）
- ・良いグループだった。
  - ・チームワークがよかった。
  - ・短い間だけどもた会いましょう。
  - ・一人では厳しい部分があったと思う。
  - ・初めボランティアが多かったので、どう動けばいいのかわからなかった。人数はちょうど良い。
  - ・ゲストの必要なサポートの度合いがバラけていて、一人ではキツイときに、手隙になったボランティアに他のボランティアの手伝いを協力してでき、とてもよかった。
  - ・対応をするゲストの障害のレベルでかなりの負担のかかっているボランティアがいる。本来ボランティアで来ているのですからどのようなゲストの方とペアになってもしっかりとボランティアをすべきですが、やはりあまり負担のかかっていないボランティアを見ると少し不公平感を持つようです。これにはホテルの設備もかなり関係していると思います。

Q 3. ボランティア説明会についてお聞かせください。

- |             |    |             |    |
|-------------|----|-------------|----|
| a. わかりやすかった | 6名 | b. まあまあ良かった | 7名 |
|-------------|----|-------------|----|
- c. よくわからなかった 0名
- ・席にすわるまで、いつも時間がかかりすぎる。その後チームミーティングをするのだからチーム毎の札を掲げてすぐ座る場所が分かるようにした方がよい。
  - ・一番先にチームの顔あわせがあった方が、わかり易いかなと思いました。
  - ・車椅子の扱い方の説明が役にたった。使い方の再確認ができた。

Q 4. 今回の大会に参加してあなた自身良かったと感じた事とそうでなかった事を教えてください。

- ・初めの参加であまり役に立てなかった。
- ・前も来ていて、今年も来れてよかった。
- ・初めて介護というものの実践をして、初めどうしたらいいかとか全然分からなくてとまどった事がいっぱいあったが、頑張れたと思う。
- ・昨年よりも手伝うべき部分とそうでない部分を意識してやれるようになり、ダイビング中の負担も感じませんでした。楽しかったです。
- ・今回小さなトラブルがありましたが、このことを生かすために、サポートダイバーに対してその詳しい内容、トラブルが発生しそうになった時の対応の仕方、学ぶべきことなどのレポートを出して、サポートダイバーがさらにスキルを向上する様にすべきであると思います。
- ・ゲストの方のレベル（体験orファン）をもう少し明確にすべきではないでしょうか。いくら障害があるからといってダイビングに関してはまったく何も自分でできないのであれば、ファンではなく体験とするべきだと思います。
- ・自分のパートナーだけでなく、他の障害者の様子も見れて、サポーターとしての勉強になった。
- ・良かった事は、初めて全介助のゲストと組ませて戴いて貴重な体験をした。そうでなかった事は、全介助のゲストと組むときは、必ず介護士か経験のある方と同室が良い。一生懸命やる気はある

が気を使いすぎてボランティアの腰を痛めた。ボランティアは2人以上が望ましい。

- ・うまく動けず、周りに迷惑をかけどうだった。すべき事を指示をしてもらった方がよかった。
- ・ボラで参加させてもらって介助の方法が良く分かり、ダイビングもできてとても良かった。
- ・良かった事は、障害をもった人達へのいたわり、力貸し等マンパワーを痛感しました。そうでなかった事は、ゲストを待たせる事が多い。ムダに時間がかかっていた。
- ・はじめての全介助ゲストで、すべてについて不安がいっぱいでしたがゲストが必要としていることをきちんと伝えてくださったのでよかった。いい勉強になりました。今後の課題は水面、水中でのサポートのスキルアップです。
- ・送迎バスのチーム別配置も決めてあればもっとスムーズになったと思う。
- ・改めて障害者の方のCカードとは何かを考えさせられました。本来Cカードというのは自己責任でダイビングをしてもよいですという意味の certification card ですよ。ダイビングができますよというライセンスではありません。もちろんJBDAのCカードにはたぶんその辺のことは考慮されているのですが、ゲストの中にはこのCカードの意味をご存知なくて、見ているとまるで体験ダイビングをしているような感覚で潜っていらっしゃる方がおられます。この辺のことが今回のトラブルにも関係しているのではないかと思います。

Q 5. 今回はオプションを設定してありません。この件についてお聞かせ下さい。

- a. 観光などあったほうが良い 2名
- b. もっとダイビングがしたい 5名
- c. どちらともいえない 5名
- d. マリンスポーツがしたい 1名

Q 6. 協会事務局へのご意見、その他

- ・行きの送迎よりも帰りの空港までの学生・ボラ・スタッフを増やして欲しい。一緒に帰るボラへの負担が大きすぎる。ボラの数が増えない原因では？
- ・終わりの交流会ではスピーカーの位置、真横で大きな音で鳴ると食事どころではありません。
- ・Tシャツのサイズがわかりづらかった（男性もののM？ 女性もののM？）。
- ・ボランティアはプロではない。全介助、要介護のゲストにはそれ相応のボラが必要に思う。
- ・大きな大会で大変でしたが、これからも大会が続くことを願っています。
- ・チームの中での分担、振り分けで役割がはっきりしているとどのように動けばよいか初回でも周りを見れば分かると思った。
- ・大勢の人達を動かすための下準備等は大変な事です。皆様の労力に感謝しております。
- ・普通の水をもう少し載せてほしいです（水なら飲用にも顔を洗うなどもできるので）。
- ・港とホテルのロケーションがよければもっとよい。
- ・ホテルに関しては今まで参加した中では設備として一番整っていなかったのではないのでしょうか。そのためゲスト、ボランティア両方に負担がかかっていたように思います。
- ・いつもいらっしゃるリピーターの方には居心地がよいのかもしれませんが、初めての方には少し配慮が必要なのかもしれませんがね（ゲストもボランティアも）。

Q 7. 来年は記念すべき10回大会です。特別企画などご要望があればお教えてください。

参考にさせていただきます。

- ・「海人」Tシャツに協会のマークを入れたオリジナルTシャツはいかがでしょうか？
- ・全国へPR、ボラを増やす。
- ・10回連続参加ゲスト・ボランティアの表彰。

## 7. 広報資料

### ○ 新聞記事

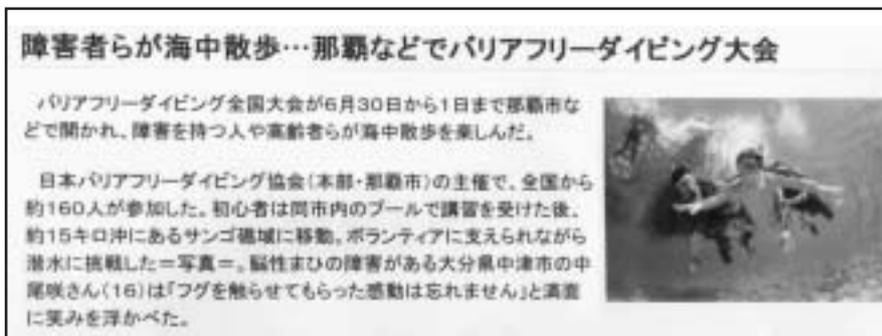
2006年 6月30日 (金)  
琉球新報 夕刊



2006年 7月1日 (土)  
沖縄タイムス 朝刊



2006年 7月2日 (日)  
読売新聞 福岡版



### 障害者潜水大会 皆の協力で満喫

学生 中尾 咲 16  
(大分県中津市)

私は脳性まひの障害があり、手足と言葉にハンデを持っています。病院の医療ソーシャルワーカーから、今夏、沖繩でバリアフリーダイビング全国大会があると聞き、初参加しました。

様々なハンデを持つ障害者や高齢者がゲストとしてボランティアと2人1組になって海中散歩を楽しもうとの試みで、約160人が参加しました。私にとって

海に潜るのは初めてで、初めはどきどきしました。慣れるにつれ、海中散歩の楽

しさがわかり、特に泳いでいるフグに手で触れることができ、興奮しました。

すばらしいのはゲストやボランティアとかの関係なく、みんなで大会を盛り上げていていることです。例えば、段差があっても、スタッフやボランティアが力を合わせ、車いすごと運んでくれます。海に潜る時、フェイスマスクがなかなか合わず、何回もやり直すことになってもインストラクターの方はあきらめません。「ゲストを海に潜らせてあげたい」という心からの願いが強く伝わってきました。

大会を通じ、障害者も健常者もともに楽しみ喜び、笑い、泣き、みんなで力を合わせてバリアを越えることこそ、本当のバリアフリーだとわかりました。障害者も一人の人として十二分に楽しめる世界でした。



▲ダイビングを楽しむ中尾咲さん(写真右)



▲中尾咲さんが  
実際に触れたコクテンフグ



▲Hチーム集合写真  
(前列右端：中尾咲さん、左より3番目：付き添いで参加された祖母早川喜美代さん)

## ○その他マスメディア

### ○琉球朝日放送 (QAB)

2006年7月7日(金) 放映



### ○琉球放送 (RBC)

2006年7月14日(金) 放映



### ○エフエム那覇 (FMナハ) ラジオ

2006年6月26日(月) 午前11:00~11:15

「ナハぶらっ」・・・「この人に聞きたい！」コーナーにて  
屋良洋子出演



## 8. 会計報告

### 第9回バリアフリーダイビング全国大会収支報告

(2006年6月29日～7月2日)

	科 目	金 額
I	収支の部	
1	参加費・交流会費	2,578,000
2	広告協賛金・協賛金	1,930,000
3	旅費・宿泊費	8,773,118
4	海洋実習費	1,832,500
5	協会負担金	691,970
	収入合計 (A)	15,805,588
II	支出の部	
1	運営費	15,297,588
2	事業費	247,000
3	印刷費	157,500
4	保険料	103,500
	支出合計 (B)	15,805,588
	収支合計 (A) - (B)	0

## 9. 協会役員名簿

会長	山田眞佐喜	上級障害者スポーツ指導員
専務理事	宮里一男	有限会社エムオーテック 代表
理事	森井一雄	中央動物病院 院長
	本武久幸	サンヨーシステム開発 代表
	武藤潤	寺西歯科医院 院長
沖縄支局長	寺西真一郎	
監事	名嘉平常雄	ロンドコンサルティング 代表
協議会会長 (関東)	新井雅人	JBDA関東事務局局長
		アインダイビングスクール
(中部)		/チームキャナビス 代表
(中国)	加藤喜久	有限会社アクアビット 代表
(九州)	錦織秀治	有限会社中国ダイビング 代表
東京事務局長	山中博次	有限会社マリンテック 代表
	黒澤伴次	株式会社トランチャージ 代表
		沖縄県流通機構開発株式会社 代表

## 10. 協会顧問・参与名簿

名誉顧問	藤尾幸司	我孫子東邦病院 院長
顧問	後藤勝之	JBDAイベント安全管理対策委員長
	松島トモ子	タレント
	富田拓也	株式会社拓商 代表
	上地武昭	沖縄県障害者スポーツ指導員協議会 会長
	運天健彦	沖縄県障害者スポーツ指導員協議会 事務局長
	古野雅彦	協立病院 スポーツ医師
	伊藤博明	独立行政法人国立病院機構 新潟病院 診療部長
	鳴海幸恵	東京都老人医療センター 歯科口腔外科医師
	本間公也	共和コンクリート工業株式会社 役員
	小濱哲子	名桜大学 教授
	伊良波知子	沖縄リハビリテーション学院理学療法学科 講師
	青木英雄	昇陽物産株式会社 社長
	飯島讓	医療法人社団順邦会 飯島整形外科 院長
	瀬田芳博	財団法人社会スポーツセンター 事務局長
	中谷三男	財団法人産業教育振興中央会 事務局長
	円山忠信	円山医院 院長
	永光彰典	医療法人博愛会病院 外科部長
	阿部恒世	パラリンピックチャリティー支援事務局代表
		WAWAWA編集長
	茅野敏英	マリンプルー渡嘉敷 国立青年の家 所長
	伊佐地隆一	茨城県立医療大学 助教授
	金山太一	株式会社ムラサキスポーツ 役員
	大仁田厚	自民党参議院議員
	西銘順志郎	自民党参議院議員
	後藤博子	自民党参議院議員
	大江康弘	民主党参議院議員
	山本香苗	公明党参議院議員
	吉田章	筑波大学 教授
	伊志嶺恒洋	にこにこ整形外科医院 院長

参与	屋 良 文 雄 真 栄 田 篤 彦 大 橋 碩 男 高 尾 清 子 市 川 徹 一 佐久間 真 一 河 野 一 郎 比 嘉 秀 則 田 端 充 外 間 裕 朋 山 崎 博 臣 高 山 朝 夫 濱 本 朝 金 山 田 忠 明 本 田 貴 志 高 橋 英 明 井 上 浩 浩	沖繩ジャズ協会 副会長 ジャズピアニスト 西町クリニック 院長 社団法人那覇医師会理事 有限会社ナカムラ ビックフット 代表 障害者スポーツ指導員 中国電力株式会社 配電部計画担当 副長 久茂地公民館 社会教育指導員 医療法人河野整形外科医院 医院長 秀月 代表 舞台監督 沖縄県観光商工部情報産業振興課 主査 木原病院 医師 沖縄県立浦添工業高校 教頭 元沖縄警察学校長 山田歯科医院 院長 セガミメディックス株式会社 薬剤師 株式会社宝建 代表 / 川口市市議 東京電力株式会社 埼玉支店さいたま支社 課長
茨城県推進室長	山 崎 眞 巳	有限会社メディカルクリーンサービス 代表
中国地区推進室長	秋 尾 護	山口潜水有限会社 代表
推進委員	西 村 慎 祐 酒 井 洋 水 谷 正 人 野 口 正 定 康	有限会社山手工業 理学療法士 名古屋市役所 有限会社インターラーケン 代表
エコツーリズム推進室長	松 原 孝 雄	リンカーン学園 講師



# 11. 後援・共催・協力・協賛一覧

## 後援

厚生労働省 沖縄県 那覇市 第十一管区海上保安本部 沖縄県社会福祉協議会  
沖縄県身体障害者福祉協会 浦添市社会福祉協議会 (財)日本海洋レジャー安全・振興協会  
沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会 (財)沖縄県観光コンベンションビューロー  
(財)日本障害者リハビリテーション協会 (財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団  
MFAジャパン株式会社 サン・アビリティーズうらそえ 沖縄タイムス社 琉球新報社  
日本経済新聞社 読売新聞西部本社 毎日新聞那覇支局 沖縄テレビ放送株式会社  
琉球放送株式会社 琉球朝日放送株式会社 NHK沖縄放送局 沖縄ケーブルネットワーク  
株式会社ラジオ沖縄 株式会社エフエム沖縄

## 共催

独立行政法人 国立沖縄青少年交流の家  
文部科学省所管財団法人 社会スポーツセンター

## 協賛・協力

昇陽物産株式会社  
・Tシャツ



株式会社タバタ

- ・メッシュバッグ
- ・ダイビングナイフ
- ・キーホルダー
- ・インナー



株式会社ムラサキスポーツ  
・バスタオル  
・ショッピングバッグ



ワールドダイブ株式会社  
・ウエットスーツ



株式会社ゼロ  
・フルフェイスマスク用  
バンドカバー



南西医療器株式会社  
・酸素タンク



社会スポーツセンター  
・マスク&フィン



西町クリニック  
・医療資材

おきなわ太陽の町  
・トラック1台

那覇医師会  
・医療資材

株式会社沖縄ポッカコーポレーション  
・さんぴん茶



大塚製薬株式会社  
・アミノバリュー  
・SOYJOY



瑞泉酒造株式会社  
・もろみ酢  
・泡盛



瑞穂酒造株式会社  
・もろみ酢  
・泡盛



南島酒販株式会社  
・もろみ酢  
・泡盛



わしたショップ  
・割引券



学校法人尚学学園  
・テント



那覇市立  
那覇中学校  
・テーブル  
・イス



那覇市社会福祉  
協議会  
・リフトカー



浦添市社会福祉  
協議会  
・マイクロバス



有限会社E&K  
・介護移送車両



沖縄県社会  
福祉協議会  
・車イス



沖縄県身体  
障害者福祉協議会  
・手話通訳



司会  
・RBCアナウンサー  
未吉りえ



## 12. 協賛広告

### ☆順不同

昇陽物産株式会社  
株式会社ムラサキスポーツ  
共和コンクリート工業株式会社  
株式会社宝建  
ワールドダイブ株式会社  
日本ウエットスーツ工業会事務局  
株式会社ゼロ  
J C I A ・ J E F F = C M A S  
沖縄電力  
全日本潜水連盟 J U D F  
株式会社トランチャージ  
株式会社ビーイズム  
株式会社クリニカルサポート  
有限会社エム・オーテック  
医療法人大平会  
河野整形外科医院  
西町クリニック  
円山医院  
にこにこ整形外科医院  
沖縄農興  
沖縄殖産株式会社  
沖縄自然薬草センター

寺西歯科医院  
ながた歯科医院  
やえす歯科医院  
医療法人尚歯会 一日橋むらた歯科医院  
町の歯いしゃさん  
オリオンビール株式会社  
もろみ酢.c o m  
合資会社協和  
株式会社山文  
かりゆしアーバンリゾート・ナハ  
旅館 松竹  
ビジネスホテル マリンウエスト那覇  
湯島プラザホテル  
首里城下食事処 秀月  
古都里  
JAZZ LIVE in 寓話  
沖縄スイミングスクール  
有限会社中国ダイビング  
名古屋ダイビングセンター  
アインダイビングスクール  
/チームキャナビスダイビングサービス  
マリンハウスおきなわ

### ☆遠方から応援いただいた皆様

横浜市 斉藤 毅様 / 群馬県伊勢崎市 提橋 カ一様 / 東京都墨田区 石井 敏子様  
東京都 サロン・ド・オオモリ 大森様 / 東京都江戸川区 鳥羽 貞夫様  
静岡県 山田 忠明様 / 沖縄県那覇市 味処 禮様 / 沖縄県那覇市 外間 裕明様  
東京都墨田区 大橋 碩男様 / 共和コンクリート様  
メディカルクリーンサービス代表 山崎 真巳様

### ☆医療を支えてくださった皆様

国立療養所箱根病院	医師	伊 藤 博 明 様
		伊 藤 和 子 様
西町クリニック	医師	真栄田 篤 彦 様
協立病院	医師	行 岡 正 彦 様
	医師	廣 田 健 様
	医師	後 藤 恭 子 様
沖縄リハビリテーション福祉学院講師		伊良波 知 子 様

皆様のご協力ありがとうございました。

## 13. 次回大会課題/告知

- ☆ 次回大会への早期プランニング(ホテル等)と告知及び連絡
- ☆ J B D A 指導員への教育の徹底
- ☆ サポートダイバーの育成と指導
- ☆ 安全対策の充実
- ☆ 事務における事務手続きの充実
- ☆ 備品(車椅子等)の充実

☆告 知☆

### 第10回バリアフリーダイビング全国大会

日 程	2007年6月下旬を予定しております
場 所	沖縄県内
参加募集人数	ゲスト参加 50名 (予定) ボランティア参加 200名 (予定)
募集要項発送予定	2007年 1月下旬予定
募集締め切り予定	ゲスト参加者 2007年 3月下旬予定 ボランティア 2007年 4月下旬予定

**皆様のご参加をお待ちしております!!**

## 14. 2006年度地区大会報告

※今年度の地区大会については現在(8/10)未開催のため  
各大会終了後 J B D A ホームページにてそれぞれご報告いたします。  
ご了承ください。

※地区大会日程

○第7回 関東大会 10月14日(土)・15日(日)

○第4回 宮古大会 9月下旬～10月上旬

上記2大会につきましてはゲスト、ボランティアの参加者募集をしております。  
お問い合わせください。

- ・ J B D A 関東事務局  
TEL:03-3836-0677/FAX:03-3839-3380/E-mail:diver@iyne.com
- ・ J B D A 宮古事務局/宮古島マリンリゾート協同組合  
TEL&FAX:09807-3-7110

第9回大会の写真(CD)、ビデオ、DVD販売をしております

写真(CD)	1枚	¥2,000
ビデオ	1本	¥3,500
DVD	1枚	¥4,000

# 15. スナップ写真

## 到着・開会式



## Welcomeディナー



## 1日目 ファン



## 1日目 体験



## 2日目 ファン



## 閉会式/交流会



## 参加者/チーム別



A-TEAM



B-TEAM



C-TEAM



D-TEAM



E-TEAM



F-TEAM



G-TEAM



H-TEAM



I-TEAM



J-TEAM



K-TEAM



全参加者



財団法人日本障害者スポーツ協会登録団体

**JAPAN BARRIER FREE DIVING ASSOCIATION**

**日本バリアフリーダイビング協会**

本部事務所 〒900-0021 沖縄県那覇市久米1-5-18 稲福ビル1F  
TEL: 098-869-4957 / FAX: 098-867-4034

ホームページ <http://www.e-jbda.com/>

Eメールアドレス [info@e-jbda.com](mailto:info@e-jbda.com)